

期待づくり

須田 哲生

(YURIホールディングス株式会社 代表取締役)



■サステナビリティとSDGs

近年、経営において力を入れようとしているのが、サステナビリティ(持続可能性)とSDGs(持続可能な開発目標)への取り組みです。グループ全体でも個別企業でも、自社ビジョンに基づいた活動を進める中で、結果として関連する多くの具体的なアクションを実施しています。

また、グループの研修のプログラムの中に、SDGsの要素を取り入れています。自社の製品がSDGsのゴールに何らかの関与をしている可能性もあり、まずは社員にそうした意識付け、周知をしています。ただ『ものをつくる』のではなくて、我々はそういう使命・ビジョンを掲げ、社会貢献をしているという意識を持ち、全員で共有することが、これからは非常に大事になると思います。今までは、製品をつくり、技術や「How to do」(どうやってやるか)のレベルを高めてきたのですが、今は「Why to make (do)」(なぜそれをするのか)、社会的にどういう価値があるのかを考えながら進めています。

サステナビリティ、SDGs、そしてESG(環境・社会・企業統治の観点から世界の課題解決をはかる)はすべてつながっているという認識で取り組まないと、それぞれが「点」で終わってしまうと思います。また、それらをつなげていく意思・意識というものが、これからはますます重要になっていくと考えています。

SDGsの面では、具体的な事業として二次電池試験事業があります。リチウムイオン電池の評価と特性試験を受託し、試験データなどをお客様に報告するという事業になります。この事業は、SDGsの17の目標のうち、「7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」、「12 つくる責任 つかう責任」という3つの目標に向かうものであると認識しています。

SDGsと自社の取り組み

二次電池試験事業



- クリーンな社会の実現
- 新技術の開発

YURIホールディングスの二次電池試験サービス



(当社の社内資料より。以下、同じ)

また、「1 貧困をなくそう」では、NPO法人テラ・ルネッサンスの支援を行っています。このNPO法人は、「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」を目指し、「地雷」、「小型武器」、「子ども兵」、「平和教育」の4つの課題に対して、カンボジア、ウガンダなど現地での国際協力や、国内外での啓発・提言活動を通じて解決に取り組んでいます。

さらに、「8 働きがいも経済成長も」では、教育、資格取得支援制度など人事制度に工夫を取り入れています。

以上のほか、「11 住み続けられるまちづくりを」においては、交通安全教育活動、

プロスポーツスポンサー活動、中高生応援番組などに取り組んでいます。

「企業の社会的責任」として、利潤の追求だけではなく、地域や国、さらには世界へ何らかの貢献をしていかなければならない、ということだと思います。

■TRY-7（トライセブン）プロジェクト

TRY-7プロジェクトは、2025年度を最終年度とするグループ全体のプロジェクトで、全体最適で真のグループ経営体制を実現することを旗印とし、お客様とより深い関係性を構築することや、これまで培ったノウハウを礎とした新しい提案の実現を目指しています。最終年度の2025年は、グループの発祥である由利工業が創業してから70周年を迎える年であり、一つの通過点ですが、大きな区切りと位置付けています。

プロジェクトのキーワードは「期待づくり」。これは、ただの「ものづくり」に終わることなく、お客様、取引業者、株主、社員など、目の前や周囲の方々に真摯に向き合っており、皆様の期待に応えていくということです。それが、より良い「未来づくり」につながると私たちは考えています。

SDGsと自社の取り組み



● 交通安全教育活動

● プロスポーツスポンサー活動



SDGsと自社の取り組み



● 中高生応援番組

「Team UP! Cheer UP!!(チムチア)」



ABS秋田放送
第1・3火曜日21:54～放映中!!

このプロジェクトにおいて、「事業戦略（様々な目標・プラン）」の出来栄はまずまずなのですが、「組織戦略（実行力）」にはほとんど手をつけていなかったため、組織面の軌道修正を行いつつ展開をはかっているところです。まず、組織における経営・管理者・従業員という3層の相互理解を高めると同時に、向かうべき方向の共有に力を入れています。そして、組織が環境に適応しながら変化し、健全に効果的に機能するよう組織開発に取り組んでいます。社内では、「個人の力だけでなくチームの力で戦える組織をつくっていこう」、「『最高の組織』をつくることにより、どんな環境下でも戦える会社になる！」と声を掛け合い、「組織として、グループとして、一枚岩になる」ことを目指しています。

一方、私の役割と約束は、朝礼など機会あるごとに伝えてますが、右の3点になります。もちろん、私ひとりではできないことですので、役員・経営幹部をはじめ皆さんに協力してもらいながら推進しています。

私の役割と約束

1. 高収益で持続発展していく企業グループにする
2. 常にお客様に喜ばれる製品・サービスを提供し社会貢献する
3. 働く全社員が幸せで働き甲斐のある会社にする

YURI HOLDINGS CO., LTD.

■QC愛活動

QCサークル活動は、我々の「ものづくりの土台」と位置づけています。当社では「愛」を入れて「QC愛活動」と呼んでいます。これは、改善活動を通じて愛情を持って製品に接すればいい製品が生まれる、という信念に基づいています。

右のポスターは今年度のもので、恒例として前年度の成果発表大会の金賞サークルが登場しています。金賞サークルというと、づくりこみを担当する工程が受賞するというイメージが強く、実際にQCサークル活動のネタも多いのですが、この写真のサークルは出荷係を担当しています。出荷係として「お客様に一番近いところにいる」という高い意識のもと、動線、レ

QC愛活動 2021

製品に愛情を!

活動期間: 2021年4月1日 ▶ 2022年3月31日

第22回 QC愛活動 成果発表大会 金賞 出荷係 シュツカースサークル

【目的】
美しい環境で
美しい製品を
つくる

【方針】
今こそ健康・クレーン力
全社全員参加のQC愛

【キーワード】
はつきり
くつきり
すつきり

QC愛活動 活動指針

- 製品の尊にあって作業を推進す。
- 製品の尊にあって施工員・設備を見直す。
- 製品の尊にあって設備を見直す。
(温度・湿度・風・レイアウト)
- 五感で作業を見直す。
(原理・原則・環境・設備・環境)

Love The Product!

山崎工業株式会社

アウトなどを分析・改善し成果に結びつけていました。「製品の取扱いにおけるミスを少なくする」ということを突き詰めていく中で、改善の度合いは実に大きなものとなり、非常に印象に残っています。

以前は「やらされ感」も少しあったように思いますが、近年の発表大会では社員たちが主体的に活動しているという姿勢が強く伝わり、頼もしく感じています。



会社概要

- | | | |
|----------|--|--|
| 1 会社名 | YURIホールディングス株式会社 | |
| 2 代表者 | 代表取締役 須田 哲生 | |
| 3 所在地 | 〒018-0604
由利本荘市西目町沼田字新道下2-659 | |
| 4 電話番号 | 0184-33-2140 | |
| 5 FAX | 0184-33-4338 | |
| 6 URL | https://yuri-hd.co.jp | |
| 7 設立 | 2015年（平成27年）4月1日 | |
| 8 資本金 | 9,000万円 | |
| 9 グループ企業 | 由利工業株式会社 秋田精工株式会社
横手精工株式会社 由利電子部品株式会社
SEIKO INDUSTRY VIETNAM CO., LTD. | |
| 10 従業員数 | グループ 約1,200名（2021年3月現在） | |
| 11 企業理念 | 創造によって地域社会に貢献する | |